

中央大学附属中学校における「主権者教育」実施報告書

- 目的：「国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動する主権者を育成する」ことを大きな目的として、身近な政治の場である市議会の役割を伝えることで、市議会と市政への関心を高め、主権者としての土台となる認識を深める機会とする。また、本市議会としても、交流を図ることで、政策形成に向けた一助とすることを目指して行うものとする。中学生を対象に実施する上で、テーマの選定や説明のわかりやすさに留意して取り組む。

1. 実施の主な内容

- 実施日時 令和7年（2025年）10月20日（月） 9：00～12：00
※集合時間8：30（新小金井街道・正門前） ※議会運営委員は8：15集合
- 実施場所 中央大学附属中学校 視聴覚室・各教室
- 対象 中学2年生 169名
- 実施の主な内容
 - ◆クイズ・Q&Aを交えて市議会の役割等について知ってもらう
 - ◆各クラスを2グループに分けてテーマに基づく意見交換を行う
 - ◆各グループに2名の議員を配置する。
 - ◆各グループのディスカッションのまとめを発表し交流する。

2. ディスカッションのテーマと進め方など

- テーマについて
「中学生が政治に興味をもつにはどうしたらいいか？」
- 意見交換のおおよその進め方
各グループに参加した議員が、アイスブレイクや話題提供などを行いテーマに基づく議論をリードする。

3. 実施に至る経過

- 5月23日 正副委員長で中大附属中学校の担当教諭と懇談。中学2年生を対象にした「主権者教育」の実施について照会を受ける。
- 6月11日 議会運営委員会で開催を決定。
- 7月18日 議会運営委員9名で学校担当者と懇談。実施にあたっての注意点や課題などについて確認。
- その後、メールで実施内容について意見交換を正副委員長で行う。
- 10月17日 正副委員長で学校担当者と実施に当たっての最終打ち合わせを行う。

4. 実施に当たって準備したもの

- ① 議会事務局に依頼したもの
 - ・ 模造紙 ・ 付箋 ・ マーカー ・ レコーダー ・ 市議会のぼり ・ のぼりスタンド
- ② 議員が準備したもの
 - ・ ネームプレート ・ 記録用カメラ ・ 太字マーカー ・ タイムキーパー用残時間表示版
- ③ 学校で準備したもの
 - ・ パワポ上映用プロジェクター ・ 音響機器

5. 当日の進行

時間	実施場所	内容	議員の配置
9:00	視聴覚室	開会あいさつ	副委員長
9:02		議長あいさつ	議長
9:05		議会2択クイズ 議会の説明	議運委員長
9:20		議員へのQ&A	片山・水谷
9:40		●進行について説明 ① テーマについて各クラスに分かれて意見交換を行う ◆各クラスを2グループに分ける ※グループの場所是要検討 ※グループの分け方是要検討 ② テーマについて説明 「中学生が政治に興味をもつにはどうしたらいいのか？」 ◆政治は身近なもの ◆そのために投票することは大切 ◆どうしたら政治に興味をもっともてるのか など、グループ討議で深めてほしい旨を説明する。	副委員長
9:50	移動・休憩		
10:10	各教室	●意見交換の準備 ◆各クラスを2グループに分ける ◆グループごとに話し合った内容を発表する担当者を決める	各クラスに議員4人配置
11:10	移動・休憩		
11:30	視聴覚室	各グループの報告 10グループ×2分 意見などの交流	副委員長
12:00		閉会	副議長
		残れる人は意見・感想の交流	

6. 各議員の感想及び今後の課題等についての意見

① 感想

- ・再度の主権者教育の機会の橋渡しをしていただいた中央大学附属中学校の先生に改めて感謝申し上げたい。
 - ・初めての中学生への実施であったが、高校生よりもピュアで政治や社会の関心事というより、そもそも論の疑問や関心が多かった。
 - ・初めての中学生にしては内容が難しいというか盛り込み過ぎて、もっと中学生の関心に寄せる対話の時間を持った方が良かったのではないか。
 - ・中学生からの質疑応答やディスカッションの中で様々刺激をいただけたいい機会だった。
 - ・市議会議員としてのエピソードを話していると凄く興味を持って聞いてくれていた。
 - ・各クラスに分かれてのディスカッションでは、生徒全員に興味を持ち続けてもらうことが難しかった。
 - ・グループでは、最初はなかなか発言が出てこなかったが、フリートークで「政治とは何か」、「政治に興味を持つには」、「皆が選挙に行かなかったらどうなるか」という、質問で少しずつ意見が出るようになり、問題意識を共有する雰囲気生まれた。最後のディスカッションテーマに入る頃には、すべての生徒から発言が出るようになり、生徒の皆さんが搾り出す様に考え、意見を述べていただいた事に感謝。中には、考えもしなかった発想もあり、生徒の秀逸さに大変に感心し、若い生徒の声を聞く事の大切さを改めて実感した。
 - ・学生がまじめに取り組んでいた。
 - ・中学生での取り組みが無事終わってよかった。
 - ・参加する生徒によってグループの雰囲気が違うと感じた。
 - ・ファシリテートについてはもう少し事前のレクチャーが必要だったと思う。
 - ・中学校での開催が体験できたことは貴重な機会だった。市教育委員会にも実績を伝え、公立小中学校での開催を検討したい。
 - ・生徒の人数が多く、議員が圧倒されていたように思う。
 - ・特にグループワークでは、かなりファシリテーションが難しかった。15人ほどの生徒人数は多すぎて、各生徒の声も聞こえず、みんなで話す形にはならなかった。7～8人の生徒人数に、議員が2人から3人以上といった配置が望ましいと感じた。
 - ・170人を1日で、という形ではなく、可能であれば、午前午後で半数に分けるか、半数ずつ別日で設定するなどの工夫が必要だったように思う。
 - ・今後も、中央大学附属高等学校や中学校と連携し、いろんな形で主権者教育にトライできると議員にとっても勉強になると考える。
 - ・中学生から政治に触れたり、考えたりする機会があることは有意義だと感じた。今後も続けてほしい。
 - ・グループワークについて、最初は意見が出なかったものの、ファシリテーションにより雑談などを経て、しっかりと意見が出るようになった。非常に前向きで他の生徒とのコミュニケーションもよかった。最後の発表もこちらの指示なしでできたのは、すばらしかったと思う。
- 個人的には4回目の参加となる主権者教育。中学生対象で170名という大人数は初めてのこと

で、良い経験となった。議員へのQ&Aでは「議員になって楽しいこと、やりがいは何か」という質問に、「楽しいこと、というのはなかなか難しい」といった回答をしたら、その後のグループトークの時に「議員が楽しそうでないから若者は政治に興味を持っていないのではないか」と指摘されたことが心に残った。

- ・中学生と話ができる機会をいただけたのはありがたい。
- ・「政治に興味をもつにはどうしたらいい？」というテーマが漠然としていたように思う。政治に関心がないと言っていた生徒さんが多かったように思うが、関心がない政治について「どうやったら興味を持てるか」と問われても答えにくいと思った。発信の強化が必要なことを改めて認識したが、我が会派としては「政治側」の行動変容を導き出したい訳ではなく、「自分ごと」として考えられるような具体のテーマを提示することが必要と考えた。
- ・グループによって、机の配置など様々であった。全体を見ていて、机なしで島をつくと物理的に距離が近くなるので、打ち解けやすいように思った。
- ・中学生の政治（議員）に対しての率直な意見を聴く事ができたのは、非常に有効な機会であった
- ・中学生にとって、テーマが若干抽象的であった
- ・グループのキーマンを見つけるまでは、場を温めていくのに苦心した
- ・今後も同様の授業を持たせてもらえることを要望したい
- ・今の学校の雰囲気、中学生の生の姿、発言に触れることが出来た貴重な機会であった。肌感覚を今後の教育行政の参考にしていきたい。
- ・市の議会、議員、引いては行政を身近に感じてもらうよい機会だった。

② 今後の課題や改善点について

- ・結論づけるものではないが、前年度の中央大学附属の高校生との主権者教育におけるグループトークよりも活発に意見が出されたと感じた。生徒同士のディスカッションというよりは、生徒がそれぞれ意見を出し合って最後にグループでまとめるという今回の方法のほうがやり方としては良かったのではないかと感じた。
- ・最初の説明が中学生には難しかったのと早足だったので、関心を寄せている様子がなかった。
- ・せっかくの2択クイズも強弱がなく、一定のペースで進んでしまったため、一部の生徒しかリアクションしておらず、アイスブレイクの役割を果たしていなかったため、委員長だけでなく司会や周りの議員が盛り上げるべきだった。
- ・グループトークでそれぞれ別の教室を使えたのは良かったが、1グループの生徒数がもう少し少人数の方がスムーズに行えたのではないかと。
- ・視聴覚教室の最後部席から前方舞台が見にくかったため、終始舞台上での対応が相応しかった。
- ・各項目の時間配分や進行順も検討の余地があると感じた。
ディスカッションテーマに入る前に、フリートークで具体的な質問を投げかけた事が、生徒たちの想像力を掻き立て、発言のきっかけ作りになったと思う。欲を言えば、生徒から質問を投げかけられるようになれば、さらに良かった。
- ・ファシリテーターを決めるのに、時間がかかってしまったので、事前に決めてもらうとか、方法を統一した方がよい。
- ・聴覚室で、最初、後ろの方まで音が届かず、集中力が途切れている生徒がいた。

- ・最初の話が長かったか、もう少し変化を持しても良かった。
- ・議会の説明や2択クイズを生徒の関心を引くように工夫する必要がある。
- ・音響を事前に確認すべきだった。
- ・テーマ設定については今後研究する必要がある。
- ・全体講義の際、最後列のほうは声が届きにくく、私語が目立った。希望者のみの参加だった高校生と違い、全員参加であり、年齢も低いことから、集中してもらえる工夫が必要と感じた。
- ・グループワークの進行は、もう少し内容を決めておいてもよかったと感じたが、今回は準備の時間が少なかったなので、今後の課題である。
- ・全体的にスムーズに進行したので今回の試みとしてはよかったと思うが、もし次回あるなら、中学生の場合、「グループワーク→発表」というよりは、単純に「少人数で議員と話す」でもいいのではと思った。それくらい、個別の生徒との会話も楽しかった。
- ・グループトークのテーマは「若者が政治に興味を持つにはどうしたら良いか」だったが、「政治」は生徒の心を動かすワードではないと感じた。学校でのルール等、生徒同士が気軽に意見交換できる身近な話題が良いと思う。生徒同士で盛り上がり過ぎてファシリテーターは見守るくらいの役割になると良い。17名で1グループは無理があったように思う。1グループ6名程度が適正人数ではないか。
- ・グループトークでは、若者の関心を引くための動画配信などのアピールの手法についての話ばかりになり、本質的な議論にならず残念だった。「そもそも政治とは何か」というところを深掘りしたかった。自分たちの生活が、いかに政治と結びついているかを実感させ、政治に参加することの意義について考えるような工夫があると良い。
- ・昨年度、議員研修でファシリテーションを学んだが、スキルアップ研修があるとありがたい。
- ・視聴覚室での全体講義の際、後方になるほど場が温まりにくいように感じた。よって、中ほどや後方に1～2名議員が立って進行のサポートをすると良いと思った。
- ・各教室において、中学生との年齢差が小さいほど緊張が溶けるのが早いように感じた。議員のグループ分けは、会派・ジェンダーに加えて年齢にも配慮すると良いと考えた。
- ・テーマをより具体的に設定した方が、意見も出やすいし、中学生にも理解しやすい。
- ・グループディスカッションの際に、冒頭アイスブレイクを取り入れた方がいい。
- ・グループディスカッションの際のテーブルの形なども統一した方がいい。
- ・同じ形式をとる場合に、視聴覚室後方の生徒が、音が聞こえないこともあり、話を聞いていなかったため、音響の事前確認及び後方に声を届けるための工夫が必要。
- ・机配置を教室形式のままでも実施したが、コの字、ロの字にした方が議論しやすいと感じた。
- ・議員も着席し、アイスブレイクを短時間行ったのち、きっちりファシリテーションした方が多くの生徒から意見を引き出しやすい。と感じた。次回に向け改善点としたい。
- ・いかに、自主的に発言するように持っていくかが課題。
- ・質問を事前にもらうというのはよい手法だしグループワークとするのもよい。
- ・質問とその回答はグループワークの中で実施する方が、話題が尽きないように持っていく易いと思う。
- ・議員はそれぞれ最低限、集まった質問に対して回答を全て考えておくことが必要になる。

③ その他

- ・市議会の様子を見たいという声もあったので、今後どんなことがお互いできるか話が進むことを期待したい。
- ・担当の先生のご協力が必要となるが、今回この経験をした生徒たちが来年はどうか、経年での主権者教育により効果があるのかも試してみたい。その際に、今年頂いた「中学生が政治に関心を持つため」のアイデアに対する試行や返答があると生徒の関心を高めることにつながるのではないかと。
- ・担当の先生方の感想や、生徒の感想を教えてください。
- ・主権者教育について議会としての取り組み方などを整理したほうが良いと思う。
- ・ご担当の先生以外の先生とも、事前に意見交換する時間が取れるとよい。振り返りの会ができると、次回以降に活かせるのではないかと。
- ・主権者教育、という名称が、上から目線のように感じ若干抵抗がある。私たちも一緒に学ばせてもらっていると思うので、他に良い名称があれば提案したい。
- ・服装に指定はなかったが、スーツは着ない方が親しみやすい場づくりに寄与するのではないかと感じた。
- ・市立小中学校でも行けると尚良い。
- ・投票箱に投じる仕掛けは、今後設けたい。
- ・議場での様子を映像で見てもらいたい。



